

●業務について、本社総支部は「働き方改革」を運動方針の主要課題と位置付け、今年度36協定は、健康増進、ワークライフバランスの充実を目指し、本社の22時退社促進の取り組みを労使で確認し、実行してきた。昨年度で深夜帯に及ぶ勤務実態者数が約600名減少している。一方、業務量が一向に減らず苦慮しているとの声もある。業務を円滑に進めるために、業務上の「確認会話」を労使で確認し、来年度36協定を締結したいと考えている。また、本部(会社間)の36協定の基本すり合わせを、春闘とは切り離し前広に議論して頂き、早めに地方に

原点に立ち返り、安全の向上と組織の強化を図り、魅力と求心力のあるJR西労組を築こう!

中央本部は、2020年2月7日(金)、TKPガーデンシティ大阪リバーサイドホテルに於いて、「JR西労組第38回中央委員会」を開催した。冒頭、上村委員長は「労働組合の原点は、助け合い、支え合いである」と改めて確認した。質疑では、原点に立ち返り、「安全」「春闘」「賃金昇進制度」「要員」「働き方改革」等について、活発で真摯な議論が展開され、議事・大会スローガンが全会一致で採択された。

全体質疑

収益増の努力の種はいつ花開く?

田部委員 (中国JRバス地方本部)



の芸備線の下深川〜三次の代行輸送終了による負担減。年末年始の利用も、対前年106%と好調に推移するなど、収益増の努力をしてきた。

●「広島エキータ支店」や貸切営業センターの開設。瀬戸内DCに合わせた広島港への新ルート、広島から竹原方面と岩国方面への定期観光バス、福井・金沢・富山線

●安全安定輸送の取り組みについては、豪雨災害での代

●今年度の春闘は、ベアはもちろんで55歳以降の基本給調整率の撤廃も必ず実現させた。●経路間違えや寝過ごしによる発車遅れ、休憩地でお客様を置いて行くなど、確認していれば防げた事象も目立っ

行輸送では中国地方のみならず、近畿地方、JRバス関係

●昨年12月に開催された、第3回全国JRバスグループ運転競技会では、高速線の部で優勝。一般線の部で銀賞を受賞。しかし、その授賞式直後、当社の広島空港リムジンバスが、志和トンネルで、多重事故が発生させてしまった。

株主と同等の還元は当然

大戸委員 (福岡地方本部)

●安全の確立について、昨年度は4件の死亡労災を生じさせ、今年度も一歩間違えば、死亡労災事故に繋がらかねない危険な触車・感電・墜落・待避不良を相次いで発生させている。

●2019年度通期の業績予想では、対前年比プラス47億円の1,555億円と過去最高の営業利益が見込まれ、満額回答の春闘結果を期待したい。



脇村委員 (和歌山地方本部)

現場に目線を置いて

●紀勢線「御坊駅」の脱線や東海道線「安土駅」の感電など、多数の事象が発生させてしまった。注意事象も減っていない。何かしらの背後要因が存在しているように思えてならない。



●働き方改革について、年々業務の仕組みやシェア、持ち

●2月19日〜20日にかけて、第11回綱引き大会を主管させていた。会場の熱気が本部闘争委員会に届くよう、準備地本として万全の体制でお迎えすることをお誓いする。



●賃金昇進制度改正が、「答えありき」のマイナーチェンジや、形だけでは終わらず、組合員全員が、自分ごと化し、積極的に参画できるように、組合員全員を対象にアンケートを実施し、分会単位での意見集約を行う予定である。

●間接部門におけるハラスメント行為がまだまだ散見される。「パワハラは絶対に許さない!」怒りの緊急職場集会」を、約150名参加のもと実施し、会社に対して我々の意思をしっかりと示すことができた。